

平成 26 年度

## 病害虫発生予察特殊報 第 1 号

平成 26 年 6 月 18 日

茨城県病害虫防除所

TEL : 029-227-2445

### キウイフルーツかいよう病の発生について

病 害 名 : キウイフルーツかいよう病

病 原 菌 名 : *Pseudomonas syringae* pv. *actinidiae*

発 生 作 物 : キウイフルーツ

#### 1. 発生確認の経過及び県外での発生状況

- (1)平成 26 年 5 月上旬, 県西地域のキウイフルーツ栽培園(1 園地 2 樹)において, 葉の斑点や新梢の萎凋, 枯死等の症状が発生した。5 月下旬, 本県農業総合センター園芸研究所において, 採取したサンプルの病徴部から細菌泥の漏出を確認したため, 横浜植物防疫所に病原細菌の同定を依頼した。遺伝子診断による検定の結果, 県内未発生のキウイフルーツかいよう病(Psa3 系統)であることが確認された。
- (2)キウイフルーツかいよう病は, 国内では昭和 59 年に初めて静岡県で確認され, 現在 10 県で特殊報が発表されている。このうち「Psa3 系統」の発生は, 平成 26 年 5 月に国内で初めて愛媛県で確認され, その後, 福岡県, 佐賀県, 岡山県, 和歌山県, 静岡県でも確認されている。

#### 2. 病徴

本病は枝幹や新梢, 葉, 花蕾に発生する。枝幹では 2 月頃から症状が現れ, 粘質の細菌液が水滴状に浸出して褐変する(写真 1)。新梢は黒変し, やがて萎凋(写真 2), 枯死する。葉では褐色斑点の病斑を生じ, 周囲に黄色帯(ハロー)を形成するが(写真 3), 「Psa3 系統」は黄色帯が明瞭ではない場合もある。花蕾では, がくや花卉の褐変がみられる。

#### 3. 病原菌と発生の特徴

病原菌は細菌の一種で, 葉や枝の傷口や, 葉の気孔および水孔から感染する。一次伝染源は罹病樹の枝幹から浸出した細菌液で, 6 月頃(梅雨時期)までは, 雨による細菌の飛散や汚染した樹液の付着により, 葉や新梢で二次伝染を繰り返す。「Psa3 系統」は, 緑色果実品種より黄色果実品種で被害が大きい。

#### 4. 防除対策

- (1) 感染した枝や葉は伝染源となるため、発症していない部位まで大きく切り戻す。「Psa3 系統」で病徴が著しい場合は、樹を伐採する。伐採・切除した被害残さは、園外に持ち出し土中に埋めるなど適切に処分する。
- (2) 発病樹の伐採や剪定に用いた器具は、必ず農業用資材消毒剤等で消毒する。
- (3) 剪定後は、必ず切り口に癒合促進剤(トップジンMペースト)を塗布する。
- (4) 本病は傷口から感染するため、風当たりの強い園では防風ネット等により防風対策を行う。
- (5) 薬剤防除は、表 1 を参考に病原細菌の感染を阻止するために予防的に行う。



写真1 細菌液の浸出後に褐変した枝 写真2 新梢の萎凋症状 写真3 葉の症状  
(写真は「Psa3 系統」の病徴。写真 1, 3 は静岡県病害虫防除所提供。)

表 1 キウイフルーツかいよう病に登録があり、使用方法が「散布」の主な薬剤(平成 26 年 6 月 11 日現在)

農薬の名称 <sup>1)</sup>	有効成分	希釈倍数・使用量	使用時期
アグリマイシン-100	キシトキサクリン ストレプトマイシン	1,000 倍	落花期まで
アグレプト水和剤 マイシン水和剤 マイシン 20 水和剤	ストレプトマイシン	1,000 倍	収穫 90 日前まで
カスミン液剤	カスカマイシン	400 倍	収穫 90 日前まで
カスミンボルドー 銅スチマイ水和剤	カスカマイシン 塩基性塩化銅	500 倍 1,000 倍	休眠期 発芽後叢生期(新梢長約 10cm)まで
コサイド 3000	水酸化第二銅	2,000 倍	収穫後～開花前まで
コサイドボルドー	水酸化第二銅	500 倍	収穫後～発芽前
銅スチマイ水和剤	塩基性塩化銅 ストレプトマイシン	600～800 倍	休眠期～蕾出現前
I C ボルドー 66 D	塩基性硫酸銅	25～50 倍	収穫後～発芽前

1) 同一枠内の剤は、名称が異なる同一の剤である。

※農薬を使用する際は、商品のラベルに記載してある事項を必ず確認し、正しく使用してください。